

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習指導 I -①				担当教員 氏名: 藤井、石津、山本、小川、岡野、宮越						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:										
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード				
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の保育実習指導 I -①では事前学習として、保育実習の意義、保育士や保育所及び児童福祉施設の役割、実習計画の立て方を学ぶ。						・保育実習の意義 ・実習計画				
授業における学修の到達目標										
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標		1. 4. 6. 9.					
A 知識・理解力			保育実習の意義や方法を理解する。							
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。							
D 問題解決力			保育実習の計画を立てる。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする										
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100	%
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。										
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク										
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:										
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題や指導案等にコメントを記載して返却										
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)				
						学習内容	学習に必要な時間(分)			
①オリエンテーション(授業の進め方、方法に関して)						【事後】①の復習	60			
②保育実習の意義						【事前】②の予習 【事後】②の復習	120			
③保育所の理解・児童福祉施設の理解						【事前】③の予習 【事後】③の復習	120			
④外部講師による講義(保育所の生活)						【事前】④の予習 【事後】④の復習	120			
⑤保育実習 I -①について(実習内容と実習に際しての留意事項)						【事前】⑤の予習 【事後】⑤の復習	120			
⑥保育所見学について						【事前】⑥の予習 【事後】⑥の復習	120			
⑦保育所見学のための準備						【事前】⑦の予習 【事後】⑦の復習	120			
⑧保育所見学①						【事前】⑧の予習 【事後】⑧の復習	120			
⑨保育所見学②						【事前】⑨の予習 【事後】⑨の復習	120			
⑩保育所見学の振り返り						【事前】⑩の予習 【事後】⑩の復習	120			
⑪実習計画に関して・実習に必要な書類に関して						【事前】⑪の予習 【事後】⑪の復習	120			
⑫実習日誌について						【事前】⑫の予習 【事後】⑫の復習	120			
⑬実習指導案について						【事前】⑬の予習 【事後】⑬の復習	120			
⑭実習に必要な教材について						【事前】⑭の予習 【事後】⑭の復習	120			
⑮夏休みの見学実習について						【事前】⑮の予習 【事後】⑮の復習	120			
使用テキスト: ①開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』<北大路書房>ISBN-13: 978-4762826214 ②開仁志(編著)『実習日誌の書き方』<一藝社>ISBN-13: 978-4863590427 ③佐藤賢一郎著『やさしい保育の教科書&ワークブック 保育所実習の事前・事後指導』<北大路書房>ISBN-13: 978-4762829918						その他参考文献など: ①開仁志(編著)『保育指導案 大百科事典』<一藝社> ②東山明ほか著『教育・保育実習実技ガイド』<ひかりのくに> ③出雲美枝子著『3・4・5歳児の保育ガイド 実習おまかせBOOK』<ひかりのくに>				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習 I -①を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習 I -①の履修を認めないことがあります。										